

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

contents	page
日本サンゴ礁学会 第15回大会および公開シンポジウムのご案内	2-9
サンゴ礁研究 ハイライト	10

会告

2012年度総会の開催について

日本サンゴ礁学会2012年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席ください。

なお、総会に出席できない方は、下記の委任状を学会事務局・浪崎直子 namizaki.naoko@nies.go.jp に11月10日(土)までに電子メールでお送り下さい(メールの件名に「2012年度総会委任状」と明記下さい)。委任状にはご自身の氏名と被委任者の氏名(または役職)をお書き下さい。被委任者の欄が空白の場合は、総会議長に委任とします。

日本サンゴ礁学会 会長 土屋 誠

2012年11月24日(土) 15:45-18:15
東京大学本郷キャンパス 理学部1号館小柴ホール

- 議事(案): 会計報告、監査結果報告、予算計画、各委員会報告、審議等
※総会后、学会賞受賞講演を予定しています。
- 事務局: 茅根 創・浪崎直子

大会案内

日本サンゴ礁学会
第15回大会および公開シンポジウム

皆様のご参加を
お待ちしております!

2012.11.22(木)・11.25(日)
東京大学本郷キャンパスにて **開催!**

サンゴ礁学シンポジウム

2012年11月25日(日) 東京大学工学部2号館213講堂

- 主催: 新学術領域「サンゴ礁学」、共催: 日本サンゴ礁学会
- オーガナイザー: 酒井一彦、山野博哉、茅根 創

- 10時-12時半 「サンゴ礁学の成果と展望」
- 14時-16時半 公開シンポジウム「変化する環境と生態系」

日本サンゴ礁学会 第15回大会および公開シンポジウムのご案内

■ 開催期間：2012年11月22日（木）～25日（日）

■ 第15回大会実行委員長 茅根 創、事務局長 中村修子（東京大・理）

■ 会場：東京大学本郷キャンパス

理学部1号館小柴ホールほか、工学部2号館213講堂
 本郷キャンパス http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html
 理学部1号館 http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_06_01_j.html
 工学部2号館 http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_03_j.html

》スケジュール

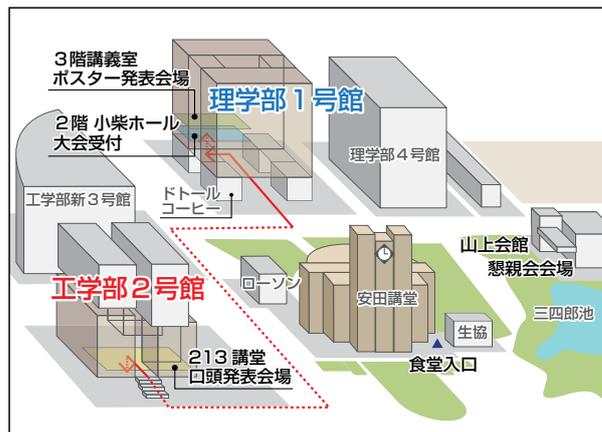
11月21日（水）各種委員会
 委員会のスケジュールは後日個別にアナウンスします。

11月22日（木）評議員会、大会受付、口頭発表		
10:00-12:00	評議員会	理学部1号館小柴ホール
10:30--	受付開始	理学部1号館小柴ホール前
13:00-18:15	口頭発表	工学部2号館213講堂
16:00--	ポスター掲示開始	理学部1号館小柴ホール前、講義室
18:30-20:30	自由集会①、②	理学部1号館839室、710室

11月23日（金）口頭・ポスター発表		
9:30-16:00	口頭発表	工学部2号館213講堂
16:15-18:15	ポスター発表（コアタイム：奇数番号）	理学部1号館小柴ホール前、講義室
16:30-17:00	スピードトーク	理学部1号館小柴ホール
18:30-20:30	自由集会③、④、⑤	理学部1号館839室、710室

11月24日（土）口頭・ポスター発表、総会、懇親会		
9:30-12:15	口頭発表	工学部2号館213講堂
13:30-15:30	ポスター発表（コアタイム：偶数番号）	理学部1号館小柴ホール前、講義室
13:45-14:15	スピードトーク	理学部1号館小柴ホール
15:45-18:15	総会、学会受賞講演	理学部1号館小柴ホール
18:30--	懇親会	山上会館

11月25日（日）シンポジウム、レクチャー		
10:00-12:30	シンポジウム（学会内）	工学部2号館213講堂
	「サンゴ礁学の成果と展望」	
14:00-16:30	公開シンポジウム	工学部2号館213講堂
	「変化する環境と生態系」	
17:00-19:00	レクチャー	理学部1号館3F講義室
	「サンゴ群集のモニタリング法」	



》受付

● 大会受付は、理学部1号館小柴ホール前です。口頭発表の会場（工学部2号館）とは別の建物です（徒歩5分）。最初にここで早めに受付を済ませた後、大会に参加して下さい。

》口頭発表

- 口頭発表の会場は、工学部2号館213講堂です。
- 口頭発表の講演時間は、質疑応答を含めて1人15分（発表12分）です。
- 発表機材は、液晶プロジェクターを用意します。パソコンは、Windows 7 (PowerPoint, Adobe Acrobat) と Mac OS X (PowerPoint, Adobe Acrobat) を用意します。発表前の休み時間までに、発表ファイルを会場のPCに登録してください。各自のパソコンを接続することも可ですが、発表前に必ず動作を確認しておいて下さい。

》ポスター発表

- ポスター発表の会場は、理学部1号館小柴ホール前ホワイエ、会議室、3F講義室です。
- ポスターは、11月22日（木）16時から11月24日（土）15:30まで掲示できます。11月24日（土）総会（15:45—）までに撤去して下さい。
- ポスター番号が奇数の発表は11月23日（金）16:15-18:15、偶数の発表は11月24日（土）13:30-15:30とします。
- パネルの大きさは、約172cm（縦）×112cm（横）です。この範囲に収まるようにポスターを作成して下さい。
- ポスター発表の中から、若手優秀賞を選出します。対象となるポスターには、プログラムのポスター番号に*がついています。

》スピードトーク

- ポスターの紹介をするスピードトークのセッションを設けました（希望された方のみ）。PSで始まるポスター番号が対象です。会場は、理学部1号館小柴ホールです。
- ポスター番号が奇数のスピードトークは11月23日（金）16:30-17:00、偶数のスピードトークは11月24日（土）13:45-14:15です。
- 会場のPCに、あらかじめ発表ファイルをいれておいて下さい。各自のPCを繋ぐことも可です。短い時間ですので、映写なしのトークで勧誘するのも効果的です。
- スピードトークはあくまでポスターに聴衆を誘うためのもので、スライド2枚以内、2分以内です。詳細な結果や議論はポスターでお願いします。

》総会・受賞講演

- 日時：2012年11月24日（土）15:45-18:15
- 場所：理学部1号館小柴ホール
 日本サンゴ礁学会の会員は、ご出席下さい。
 出席できない場合、あらかじめ学会事務局まで委任状を送付下さい。

》懇親会

- 日時：2012年11月24日（土）18:30-
- 場所：東京大学山上会館（小柴ホールから徒歩3分）
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_00_02_j.html

》口頭・ポスター発表プログラム

- 5～9ページのプログラムをご参照ください。

サンゴ礁学 シンポジウム

2012年11月25日(日) 東京大学工学部2号館213講堂

■ 主催：新学術領域「サンゴ礁学」、共催：日本サンゴ礁学会 ■ オーガナイザー：酒井一彦、山野博哉、茅根 創

10時～12時半

「サンゴ礁学の成果と展望」

●参加者：原則として学会会員

新学術領域「サンゴ礁学」の異分野連携課題の1つは、「ローカル・グローバル複合ストレスに対するサンゴ礁の応答を生物から生態系まで様々なスケールで明らかにして、その応答モデルを構築すること」です。本シンポジウムでは、サンゴ礁学で得られたストレス応答の実態とモデルを紹介して、海洋や陸域など様々な生態系を扱う研究者からコメントをいただきます。

- ▶ 酒井一彦・井口亮(琉球大)：サンゴは人為的環境変化に適應できるか？生態学と遺伝学連携の必要性
- ▶ 鈴木 款(静岡大)：複合ストレス下におけるサンゴ礁生態系・物質循環共生系の素過程
- ▶ 瀧岡和夫(東工大)：複合ストレスの包括的評価・予測とサンゴ礁生態系応答モデル解析
- ▶ コメント：小池勲夫(琉球大)、松田裕之(横浜国大)、竹中明夫(国立環境研)

14時～16時半

公開シンポジウム

「変化する環境と生態系」

●参加者：学会会員、一般 ●参加費：無料

生態系は現在、地球規模・地域的な環境変化によって破壊される危機にあります。安定した環境下で維持されてきた生態系は、急激に変化する環境にどのように応答するのだろうか。こうした変化する環境のもとで、生態系の保全、管理をどのように進めたらよいのだろうか。本シンポジウムでは、環境変化にもっとも敏感に反応するサンゴ礁で得られた知見とともに、陸域、海域における様々な時間空間スケールでの環境変化と生態系の応答、保全、管理の方策について、紹介します。

- ▶ 茅根 創(東京大)：地球温暖化で荒廃するサンゴ礁
- ▶ 竹中明夫(国立環境研)：温度の変動と生物の分布：暖かい時代と暑い年・涼しい年
- ▶ 山野博哉(国立環境研)：陸の変化とサンゴの変化
- ▶ 松田裕之(横浜国大)：海が死ぬというのは本当なのか

レクチャー

■ 主催：第15回大会実行委員会・日本サンゴ礁学会

2012年11月25日(日) 東京大学理学部1号館3F講義室

17時～19時

「サンゴ群集のモニタリング法」

日本サンゴ礁学会では、サンゴ礁を取り巻く様々な話題の最前線の情報と現状を伝えるために、学会内からそれぞれの話題の専門家を招いた、レクチャーシリーズを企画しています。第1回目となる今回は「サンゴ群集のモニタリング法」をテーマに、サンゴ群集のモニタリング法の紹介と現場での取り組み、結果の解釈の仕方とその注意点についてレクチャーします。サンゴ群集のモニタリングは、生態系スケールでの研究や保全の基礎となるもので、サンゴ礁の勉強をはじめた学生さんにとって有益と思います。さらに、サンゴ礁における様々な事業で生態系への影響評価をモニタリングしたり、保全や移植活動で群集のモニタリングが必要な事業者にとっても、標準的なモニタリング法や得られるデータの実際の意味、その使い方について理解することは重要です。

●講師：

- ▶ 山野博哉(国立環境研)：様々なモニタリング法(東海大学出版会「サンゴ礁学」第4章「サンゴの海を調べる」をテキストとして)
- ▶ 茅根 創(東京大)：長期モニタリングの例
- ▶ 岡地 賢(コーラルクレスト)山本広美(沖縄美ら島財団)：モニタリングの実際
- ▶ 中野義勝(琉球大)：モニタリング結果の使い方

●参加費：

通常・学生会員、賛助会員(何名でも)：無料
会友、団体会員：1000円(1人あたり)
非会員：3000円

申込みは大会事務局(15thjcrs@gmail.com)まで電子メールで、サブジェクトを「レクチャー参加希望」として、参加者氏名、所属、会員種別と連絡先メールアドレスを明記して申し込んで下さい。会場の都合上、先着40名までとします。

サンゴ礁保全委員会全体会 2012年11月21日(水) 18:30～20:30 理学部1号館3F336室

1. サンゴ礁保全の国際的動向

●話題提供：岡地 賢、安部真理子、中谷誠治

●概要：

今年度は、ICRS、IUCN、COP11など、サンゴ礁を含む、自然環境保全関連の国際的イベントが多く行われました。本自由集会では、サンゴ礁保全に関する国際的動向について報告し、国内でのサンゴ礁保全活動とのつながりと今後の方向性について議論します。

●報告概要：

オーストラリア政府は、グレートバリアリーフ利用者に課すリーフタックスの導入やゾーニングプランの見直しなど、最近の十数年間にサンゴ礁保全策を強力に推進してきました。それでもなお、1985年から現在までの27年間で平均サンゴ被度は半減しています。モニタリングデータの解析結果に基づいて新たなサンゴ群集の保全策を検討するため、ICRSの直前にケアンズ近郊で開催された関係者会合の概要を紹介します。(岡地)

IUCN(国際自然保護連合)は1948年に設立された国家、政府機関、非政府機関で構成された国際的な自然保護機関です。今年9月6日～15日に韓国の済州島で行われた、4年に1度の大きなイベント；第5回世界自然保護会議には、世界180カ国余りの約1100団体から1万人を超える参加者があり、気候変動や生物多様性などのテーマのもと、さまざまな分野の議論が行われました。海洋の保全についての概要を紹介します。(安部)

ミクロネシアでは陸域の20%と沿岸海域の30%を効果的に保全しようとするミクロネシア・チャレンジが2006年に開始されました。パラオでは保護区ネットワーク法の施行によりこれを達成しようとしています。また、2009年には必要なコストを賄うため環境税が導入されました。これらの仕組みと背景、将来の課題について報告します。(中谷)

2. サンゴ礁学会レクチャーシリーズへの協力について
3. 最近のサンゴ移植動向と保全委員会の取り組み
4. その他、委員会メンバー報告等

自由集会

自由集会 ①

日時：11月22日(木) 18:30~20:30 会場：理学部1号館8F839室

Mesophotic reef studies in Japan

オーガナイザー：Frederic Sinniger (JAMSTEC) / Saki Harii (University of the Ryukyus)
James Reimer (University of the Ryukyus) / Marc Humblet (Nagoya University)

This workshop will summarise recent research done on Japanese mesophotic coral reefs in different domains (biology, geomorphology, environmental science and conservation). The aim of this workshop is to promote communication between interested researchers and identify the needs for Japanese mesophotic research to become a leader in this field.

自由集会 ②

日時：11月22日(木) 18:30~20:30 会場：理学部1号館7F710室

国内のサンゴ群集モニタリング：サンゴ礁保全への意志決定支援ツールとしての活用

オーガナイザー：(主催)サンゴ礁保全委員会(中野義勝・井口亮)、(共催)沖縄サンゴ礁保全推進協議会

現在国内では、多くのサンゴ群集モニタリングが行われています。しかしながら、多くの自然環境モニタリングでも見られるように、その意義についての議論が十分でなく、その必要性についてのコンセンサスが得ることが難しくなっています。モニタリング結果を、地域のサンゴ礁保全の施策立案の意思決定に不可欠な要素として位置づけるためにも、そのデータ処理と活用する方法が必要とされています。本自由集会では、これらを見据えて、モニタリングデータの事例及び整理、統計モデリング、意思決定支援ツールへの応用などについて議論したいと思います。

自由集会 ③

日時：11月23日(金) 18:30~20:30 会場：理学部1号館8F839室

サンゴ蛍光の現場撮影技術をサンゴ礁研究に生かすには…?

オーガナイザー：古島靖夫・丸山 正(海洋研究開発機構) / 篠野雅彦(海上安全技術研究所)

多くのサンゴ類が蛍光を発していることは良く知られています。しかし、蛍光を発することが、サンゴ類にどのような意味を有しているのか？また、それがサンゴ礁の他の生物に対してどのような意味を有しているのか？近年問題視されている白化との関係はあるのか、など多くの生理・生態学的な問題が多く残されています。我々は、サンゴ類やその他の海洋生物が発する蛍光を現場でイメージングし、対象としたサンゴの状態(健康状態、環境や、周囲の生物との関係など)と蛍光との関連を明らかにすることで、蛍光イメージングがサンゴの状態をモニタリングする有効なツールになると考えています。そこで、本自由集会では、我々が開発したサンゴ蛍光の現場撮影装置と多分野にわたるサンゴ礁研究とをどのように融合させたらよいか、足りない技術や調査は何か、そのためには何をすべきか、について分野の隔てなく議論したいと考えています。

自由集会 ④

日時：11月23日(金) 18:30~20:30 会場：理学部1号館7F710室

～若手の異分野連携を考える～日本サンゴ礁学会若手会

オーガナイザー：井上志保里(東京大学) / 高橋麻美(琉球大学)

前半は若手によるサンゴ礁の連携研究例・これからやっていきたい連携研究案を紹介してもらい、参加者で自由に議論します。また本集会に合わせて「日本サンゴ礁学会若手会」を設立し、後半ではワークショップとして若手の立場を生かした異分野間・専門外との継続的な交流・連携、そしてサンゴ礁研究の発展へつなげるための戦略を、ワールドカフェという形式で議論し、若手のネットワークを構築することを目指します。本集会では前半は若手に限らず全ての方の参加を歓迎致します。後半のワークショップは若手のみで行います。

※日本サンゴ礁学会若手会では若手の目安として「雇用者側の常勤職員の方以外」を対象としています。サンゴ礁に関わっている方、興味がある方、一般の方やダイバーも大歓迎です。

自由集会 ⑤

日時：11月23日(金) 18:30~20:30 会場：東京大学小柴ホール

サンゴ礁生態系の状態とサンゴ礁生態系保全行動計画に関する意見交換会

オーガナイザー：(主催)環境省自然環境局自然環境計画課/自然環境研究センター、(共催)サンゴ礁保全委員会

「サンゴ礁生態系保全行動計画」(平成22年環境省)と、「サンゴ礁保全再生行動計画」(平成19年日本サンゴ礁学会保全委員会)について、進捗状況等の情報を日本サンゴ礁学会会員の方々と共有するとともに、今後のサンゴ礁生態系保全についての方向性、学会の役割、両計画の連携等について議論します。

発表プログラム

》 口頭発表 Oral Presentation

大会受付 11月22日(木) 10:30 から 理学部1号館小柴ホール前 Registration at Koshiba Hall, Science Bldg #1

口頭発表 11月22日(木) 13:00-18:15 Oral Presentation 22 November (Thu)

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者(所属) Authors (Affiliation)
座長 (Chair) : 新里宙也			
1H-01	13:00	沖ノ島島におけるサンゴ群集の長期モニタリング結果	○川崎貴之・山本秀一(㈱エコー)・安藤 亘・間辺本文((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄・小森健史(水産庁漁港漁場整備部整備課)
1H-02	13:15	沖縄島東海岸辺野古における海藻場調査(ジャングサウオッチ) 10年間の結果報告	○安部真理子(日本自然保護協会)・大野正人(日本自然保護協会)・鹿谷麻夕・鹿谷法一(しかたに自然案内)・吉田正人(日本自然保護協会)
1H-03	13:30	沖縄県本部町海域における造礁サンゴモニタリング	○山本広美(美ら島研究センター)・山川英治・長田智史・小澤宏之(沖環科)・岡地 賢(南コーラルクエスト)
1H-04	13:45	地球温暖化に伴う水温上昇がサンゴ分布に及ぼす影響〜温室効果ガスの排出シナリオの違いから〜	○屋良由美子・山野博哉(国環研)・藤井賢彦・山中康裕(北大・地環研)
休憩 Break			
座長 (Chair) : Frederic Sinniger			
1H-05	14:15	海洋生物データベースとサンゴ礁研究	○古島靖夫(海洋研究開発機構)・田中克彦(国際海洋環境情報センター)・丸山 正(海洋研究開発機構/国際海洋環境情報センター)・鈴木明功・澤野健三郎(国際海洋環境情報センター)
1H-06	14:30	西表島サンゴ群集の生物間相互作用と攪乱による時空間動態プロセスの推定	○熊谷直喜(琉大熱生研)・向草世香(JST さきがけ/長大水産/琉大熱生研)・酒井一彦(琉大熱生研)
1H-07	14:45	フィリピン沿岸域に生息するコブヒトデ <i>Protoreaster nodosus</i> の遺伝的分化	○中島祐一(東大・ア生セ)・安田仁奈(宮崎大・農)・松木 悠(東大・ア生セ)・DM Arriessgado(東工大院情報理工)・練 春蘭(東大・ア生セ)・MD Fortes(フィリピン大)・WH Uy(ミンダナオ州立大)・WL Campos(フィリピン大)・仲間雅裕(北大・フィールド科セ)・灘岡和夫(東工大院・情報理工)
1H-08	15:00	ゲノム情報と次世代シーケンサーを用いた <i>Acropora</i> のマイクロサテライトマーカーの開発	○新里宙也・安岡由貴(OIST)・中島祐一(東大・ア生セ)・佐藤矩行(OIST)
1H-09	15:15	東南アジア西太平洋におけるアオサンゴの集団遺伝構造	○安田仁奈(宮大・農)・Coralie Taquet(CNRS)・長井 敏(水セ・中央)・Miguel Fortes(フィリピン大学)・Tung-Yung Fan(海洋生物博物館)・Nippon Phongsuwan(ブーケット海洋生物センター)・波利井 佐紀(琉大・理工)・灘岡和夫(東工大・情報理工)
休憩 Break			
座長 (Chair) : 古島靖夫			
1H-10	15:45	Upper mesophotic coral community in Okinawa and perspectives towards shallow reef recovery.	○ F Sinniger (JAMSTEC)・Saki Harii (Univ. Ryukyus)
1H-11	16:00	宮古島北東沖に見つかった沈水サンゴ礁	○荒井晃作(産総研・地質)・松田博貴(熊大)・町山栄章(海洋研究開発機構)・佐々木圭一(金沢学院大)・山口 毅(日本海洋)・井龍康文(東北大)・井上卓彦(産総研・地質)
1H-12	16:15	久米島ナンハナリにおける中深度サンゴ群集の台風被害からの回復過程	○藤田喜久(琉大・大教セ/海研)・木村 匡(自然環境研究センター)・塩入淳生(カラーコード)・成瀬 貫(琉球熱生圏・西表研究施設)・仲与志勇(久米島漁業協同組合)・田端 敦・田端裕二(久米島漁業協同組合)・伊間亜里砂(BLUE DOME 久米島)・坂口 梓(沖縄県海洋深層水研究所)・井上福太郎(久米島馬牧場)
1H-13	16:30	Mesophotic <i>Montipora</i> from Kikai-jima	○ M Humblet (Nagoya Univ.)・H Matsuda (Kumamoto Univ.)・K Sasaki (Kanazawa Gakuin Univ.)・H Machiyama・Y Iryu (Tohoku Univ.)
休憩 Break			
座長 (Chair) : 山本広美			
1H-14	17:00	タヒチ島の後氷期サンゴ礁堆積物から発見された無節サンゴモの新種	○井龍康文(東北大・理)・Davide Bassi (Univ. Ferrara)・William Woelkerling(LaTrobe Univ.)
1H-15	17:15	西インド洋ケニヤサンゴ記録のIODと pre-El Nino シグナル	○中村修子・茅根 創(東京大・地惑)・Swadhin Behera・山形俊男(JAMSTEC・東京大)
1H-16	17:30	白亜紀ストロマトライトの形態	○中森 亨(東北大・理)・山梨純平(東北大・理)
1H-17	17:45	サンゴ州島の形成・維持過程のメカニズム	○岩塚雄大・片山裕之・関本恒浩(五洋建設)・鈴木拓也・茅根 創(東大・理)・磯部雅彦(東大・新領域)
1H-18	18:00	環礁洲島の地形と津波災害	○菅 浩伸(岡山大・教育)・中島洋典(有明高専・一般教育)・Mohamed Ali (SAARC Maldives)・Mahmood Riyaz (AIT Thailand)

自由集会 11月22日(木) 18:30-20:30

理学部1号館8F839室 Room#839 Science Bldg #1

18:30-	Mesophotic reef studies in Japan	Organizer : Frederic Sinniger (JAMSTEC)・Saki Harii (University of the Ryukyus)・James Reimer (University of the Ryukyus)・Marc Humblet (Nagoya University)
--------	----------------------------------	--

理学部1号館7F710室 Room#710 Science Bldg #1

18:30-	国内のサンゴ群集モニタリング: サンゴ礁保全への意志決定支援ツールとしての活用	オーガナイザー: 中野義勝・井口 亮(琉球大)
--------	---	-------------------------

口頭発表 11月23日(金) 9:30-16:00 Oral Presentation 23 November (Fri)

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者(所属) Authors (Affiliation)
座長(Chair): 中島亮太			
2H-01	9:30	Contribution of coral rubble associated microbial community to the dissolution of calcium carbonate under high pCO ₂	○ MN Islam · BE Casareto · T Higuchi (Grad Sci Tech · Shizuoka Univ) · Niraula, MP (Grad Sci Tech · Shizuoka Univ/Inst Sci Tech · Tribhuvan Univ, Nepal) · Y Suzuki (Grad Sci Tech · Shizuoka Univ)
2H-02	9:45	Mitochondrial electron transport system activity in symbiotic corals: methods and applications	○ Sylvain Agostini · Hiroyuki Fujimura · Kazuhiko Fujita (Univ. Ryukyus) · Yoshimi Suzuki (Shizuoka Univ) · Yoshikatsu Nakano (Univ. Ryukyus)
2H-03	10:00	サンゴの内部素過程を考慮したストレス応答モデルの開発	○中村隆志・灘岡和夫・渡邊 敦(東工大・情報理工)・宮島利宏(東大・大気海洋)・中野義勝(琉球大・熱生研)・鈴木 歎・樋口富彦(静岡大・創造科学)
2H-04	10:15	サンゴポリプ成長と骨格形成とのカップリング:プロトンダイナミクス	○市川和彦(北大・院地球環境)・服田昌之(お茶大・理・生物)
2H-05	10:30	Reproduction in the foraminifera, <i>Amphistegina sp.</i> , in Funafuti, Tuvalu.	○ A Sharma (Univ. Sth Pac)

休憩 Break

座長(Chair): Sylvain Agostini

2H-06	11:00	サンゴ礁域における海面マイクロ層の微生物群集	○中嶋亮太(JAMSTEC)・土屋健司・中富伸幸・今野文枝・戸田龍樹(創価大)・多田雄哉・浜崎恒二(AORI)・BHR Othman(UKM)・AWM Effendy(UMT)
2H-07	11:15	Dynamics of Bio-optical Factors in Malaysian Coral-reef Waters	○ Keiko Mizubayashi · Victor S. Kuwahara (Soka Univ) · Thirukanthan Chandra Segaran · Zaleha Kassim · A. M. W. Effendy (Universiti Malaysia Terengganu) · M. R. M. Kushairi (Universiti Selangor) · Tatsuki Toda (Soka Univ)
2H-08	11:30	Re-evaluation of nutrients cycle in coral reef	○ Yoshimi Suzuki · Beatriz E. Casareto · Agostin Sylvain (Univ. Ryukyus) · Hiroyuki Fujimura (Univ. Ryukyus) · Tomihiko Higuchi (Shizuoka Univ) · Yoshikatsu Nakano (Univ. Ryukyus)
2H-09	11:45	沖縄石サンゴの抗菌活性物質に関して	○佐藤神奈(静岡大・農)・カサレトベアトリス・鈴木 歎・小谷真也(静岡大・創造)
2H-10	12:00	蛍光式酸素センサープローブを用いたミドリイシサンゴの Rapid tissue necrosis のモニタリング	○和田 実(長崎大・水環)・Gregory N Nishihara(長崎大・ECSE)・磯村尚子(沖縄高専)

昼休み Lunch Break

座長(Chair): 山下洋

2H-11	13:30	Rapid tissue necrosis(RTN)を発症したミドリイシサンゴの細菌群集構造解析	○入江美和・和田 実(長崎大・水環)・磯村尚子(沖縄高専)
2H-12	13:45	アザミサンゴの精子、幼生、成群体のテロメア長について	○ 蔦 宏興 · ○日高道雄(琉球大・理)
2H-13	14:00	キクメイシ科およびオオトグサンゴ科の分類体系の大幅変更	○深見裕伸(宮崎大・農・海洋)
2H-14	14:15	ミドリイシ属サンゴの交雑について:受精率と初期生残率	○磯村尚子(沖縄高専・生物資源)・岩尾研二(阿嘉島臨海)・深見裕伸(宮崎大・農・環境生物)

休憩 Break

座長(Chair): 磯村尚子

2H-15	14:45	大浦湾のアオサンゴ群体上の珪藻について	○山城秀之・渡邊謙太(沖高専)・西原千尋(ダイビングチームすなっくスナフキン)・鈴木秀和・三瓶ゆりか(海洋大)・安部真理子(日本自然保護協会)
2H-16	15:00	サンゴと褐虫藻の初期共生系 パートナーを選ぶのはサンゴか?褐虫藻か?	○山下 洋・鈴木 豪・甲斐清香・林原 毅(水研セ西水研亜熱帯)・小池一彦(広大院生物園)
2H-17	15:15	次世代シーケンサーを用いた造礁サンゴに共生する褐虫藻の網羅的解析の試み	○久保田賢(高知大黒潮圏)・目崎拓真(黒潮研)
2H-18	15:30	糖を含むカロチノイド P457 の分子構造、褐虫藻及びサンゴにおける分布と予想される生理機能	○若浜貴宏 · ○奥山英登志 · 吉田磨仁 · (北大・地球環) · 竹ノ内明 · 小亀一弘(北大・理) · 中村明毅 · 高翔翔太(沖電開発) · 粟井光一郎(静岡大) · 河地正伸(国立環境研) · 高市真一(日本医大・生物)

ポスターセッション 11月23日(金) 16:15-18:15 Poster Session 23 November (Fri) 奇数番号 Odd numbers

理学部1号館 Science Bldg #1 小柴ホールホワイエ, 会議室, 3F 講義室

16:30-17:00	スピードトーク (PS- 奇数) 小柴ホール Speed talk (PS-odd#) Koshiba Hall	
-------------	--	--

自由集会 11月23日(金) 18:30-20:30

理学部1号館8F839室 Room#839 Science Bldg #1

18:30-	サンゴ蛍光の現場撮影技術をサンゴ礁研究に生かすには…?	オーガナイザー: 古島靖夫・丸山 正(海洋研究開発機構)・篠野雅彦(海上安全技術研究所)
--------	-----------------------------	--

理学部1号館7F710室 Room#710 Science Bldg #1

18:30-	~若手の異分野連携を考える~日本サンゴ礁学会若手会	オーガナイザー: 井上志保里(東京大学)・高橋麻美(琉球大学)
--------	---------------------------	---------------------------------

理学部1号館小柴ホール Science Bldg #1 Koshiba Hall

18:30-	サンゴ礁生態系の状態とサンゴ礁生態系保全行動計画に関する意見交換会	オーガナイザー:(主催) 環境省自然環境局自然環境計画課/自然環境研究センター、(共催) サンゴ礁保全委員会
--------	-----------------------------------	--

口頭発表 11月24日(土) 9:30-12:15 Oral Presentation 24 November (Sat)

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者(所属) Authors (Affiliation)
座長(Chair): 鈴木豪			
3H-01	9:30	サンゴ礁保全活動を現場からインベーションする	○猪澤 也寸志 (エコガイドカフェ)
3H-02	9:45	教育普及啓発活動が地域住民の生物多様性保全の認知と態度および行動に及ぼす影響 ～久米島応援プロジェクトの事例から～	○浪崎直子・山野博哉(国環研)・上村真仁・権田雅之(WWFジャパン)・深山直子(東京経済大・コミュニケーション)・藤田喜久(琉大・大教セ/海)の自然史研究所)・関谷直也(東洋大・社会)
3H-03	10:00	新聞記事にみるサンゴ礁保全に関する社会的認知度の変化	○中井達郎(国士舘大・立教大)・有川美紀子(フリーライター)
3H-04	10:15	企業が「サンゴ礁」保全に取り組む上での困難と利点	○関谷直也(東洋大学社会学部)・浪崎直子(国立環境研究所)
3H-05	10:30	伝統的左官業者によるサンゴの利用ー沖繩・石垣島の事例からー	○深山直子(東京経済大学・コミュニケーション学部)

休憩 Break

座長(Chair): 浪崎直子

3H-06	11:00	格子状基盤を使用したサンゴ増殖技術の開発ー3.異なる光条件下における生残比較および褐虫藻添加の影響についてー	○鈴木豪・山下洋・甲斐清香・林原毅(西水研)・鈴木清・家久侑大(ダイクレ)・岡田亘(エコー)・安藤亘(水産土木セ)・三上信雄(水産庁)
3H-07	11:15	港湾奥部におけるサンゴ移植の取り組み	與那嶺和史・林佳克(沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所)・○岩村俊平((株)エコー・沿岸環境部)
3H-08	11:30	那覇港内におけるサンゴ再生(1)ー港内物理環境とサンゴ被度の関係ー	○新保裕美・山本克則・田中昌宏(鹿島建設)
3H-09	11:45	那覇港内におけるサンゴ再生(2)ー網状人工基盤の設置によるサンゴ着生効果ー	○山本克則・新保裕美・田中昌宏(鹿島建設)・田崎邦男・乾邦博(日本海上工事)
3H-10	12:00	電着技術を利用したサンゴ増殖に関する電場について	○木原一禎・細川恭史(三菱重工鉄構エンジニアリング(株))・鯉淵幸生(東京大 大学院)・谷口洋基(阿嘉島臨海研究所)・近藤康文(糊シ-ビーファ-ム)・山本悟(日本防蝕工業(株))

昼休み Lunch Break

ポスターセッション 11月24日(土) 13:30-15:30 Poster Session 23 November (Fri) 偶数番号 even numbers

理学部1号館 Science Bldg #1 小柴ホールホワイエ、会議室、3F講義室

13:45-14:15	スピードトーク (PS- 偶数) 小柴ホール Speed talk (PS-even#) Koshiba Hall
-------------	--

総会・学会賞受賞講演 11月24日(土) 15:45-18:15

理学部1号館小柴ホール Science Bldg #1

11月25日(日) シンポジウム

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

10:00-12:30	シンポジウム「サンゴ礁学の成果と展望」 Symposium "Coral Reef Science -achievement and perspective"
14:00-16:30	公開シンポジウム「変化する環境と生態系」 Public Symposium "Changing Environment and Ecosystem"

11月25日(日) レクチャー

理学部1号館3F講義室

17:00-19:00	レクチャー「サンゴ群集のモニタリング法」 Lecture "Monitoring of coral populations"
-------------	---



保全活動ポスターコーナー 出展者募集

優れた活動に対して「サンゴ礁保全活動奨励賞」を授与します

日時：11月22日(木) 16:00～24日(土) 15:30 会場：東京大学本郷キャンパス 理学部1号館3階 336講義室

学会の社会連携を推進するため、本大会では保全活動ポスターコーナーを設置し、出展者の中から特に優れた活動を行っている団体・個人に対して「サンゴ礁保全活動奨励賞」を保全委員会から授与します。24日13:30～15:30を活動紹介コアタイムとし、希望者にはスピードトークのセッションも設けています。サンゴ礁保全あるいは保全につながるさまざまな活動を学会員にご紹介ください。

- 出展資格：サンゴ礁保全に関わるNPO法人・非営利団体・任意団体・個人。
- 参加費：出展者(団体の場合は1名のみ)無料。ただし、無料対象者は非学会員・初参加に限る。学会員や大会に参加したことがある方は通常どおり参加費をお支払いください。

申込みメ切：10月26日(金)までに大会事務局にメールで申し込み
詳細はホームページをご覧ください。

ポスター発表 Poster Presentation

ポスター番号が奇数の発表は 11 月 23 日(金)16:15-18:15 で、スピードトークは 16:30-17:00 です。偶数の発表は 11 月 24 日(土)13:30-15:30 で、スピードトークは 13:45-14:15 です。すべてのポスターは、11 月 22 日(木) 16 時から 11 月 24 日(土) 15:30 まで掲示できます。11 月 24 日(土) 15:45 からの総会までに撤去して下さい。ポスター番号中の記号で、PS はスピードトークを行う発表で、* は若手優秀発表賞にエントリーされた発表です。スピードトークは 2 分以内、スライド 2 枚以内で、ポスターへの勧誘を目的とします。詳細な結果や議論はポスターでお願いします。

ポスター番号	タイトル	発表者
PS-1*	サンゴによる褐虫藻の消化と放出-非ストレス下と温度ストレス下での比較-	○藤瀬里紗(広島大院・生物圏)・山下 洋・鈴木 豪(西水研亜熱帯)・小池一彦(広島大院・生物圏)
PS-2*	微小なスナギンチャクが示す特異な進化系統	○藤井琢磨(琉球大・理工)・James Davis Reimer(琉球大・超域)
PS-3*	ウミウシ-褐虫藻共生系の系統地理: 宿主の遺伝的な違いは共生褐虫藻相に影響するの?	○依藤 実樹子(琉球大・瀬底、東大・大海研)・武島弘彦・馬淵浩司・渡邊俊樹・西田 睦(東大・大海研)
PS-4*	山口県周防大島町で採集したニホンアワサンゴに共生する褐虫藻の温度ストレス耐性	○新宅航平(広島大院・生物圏)・藤本正明(NPO 法人 NFN)・末友靖隆(マイクロ生物館)・濱津芳弥(なぎさ水族館)・山下 洋(西海区水研石垣)・小池一彦(広島大院・生物圏)
PS-5*	高知県大月町の造礁サンゴの形態と生産	○会田美佳・中森 亨(東北大・理)・目崎拓真(黒潮生物研究所)
PS-6	Effects of 5 bacteria species on the health of corals and their zooxanthellae	○BE Casareto・A. Irikawa)・T Suzuki)・K Yoshinaga)・N Islam(Shizuoka Univ.)・A Iwase(IDEA Cons. Inc.)・Y Suzuki(Shizuoka Univ.)
PS-7*	Stress response and recovery in <i>Pocillopora damicornis</i> under high nitrate level and elevated temperature	○PK Chumun)・B.E Casareto)・A Irikawa)・T Higuchi(Shizuoka Univ.)・R Bhagooli(University of Mauritius)・Y Ishikawa(Institute for Environmental Sciences)・Y Suzuki(Shizuoka Univ.)
PS-8*	褐虫藻から見つかった未知のクロロフィル系色素 P684	○鈴木利幸・B. E. Casareto)・鈴木 歎)・塩井祐三(静岡大・創造科学)
PS-9	サンゴの微量金属元素と高水温下の酵素活性	○藤村弘行・佐々木 岳・林 洋之・S. Agostini)・中野義勝(琉球大)・樋口富彦・B. E. Casareto)・鈴木 歎(静岡大)
PS-10*	イソバナ科 <i>Melithaea</i> 属(八放サンゴ亜綱ウミトサカ目)の種判別に有用な分類形質の検討	○式場はるか(琉球大・理工)・野中正法(沖縄美ら海水族館)・James Davis Reimer(琉球大・超域)
PS-11*	The seasonal dynamic of <i>Palythoa tuberculosa</i> in Okinawa	○S-Y Yang(琉球大・理工)・CD Ashworth(琉球大・理工)・J.D.Reimer(琉球大・超域)
PS-12	Investigation into potential hybridization events in <i>Zoanthus sansibaricus</i>	○D Albinsky(Univ. Ryukyus)・FC Wham(Pennsylvania State Univ.)・N Shinzato)・JD. Reimer(Univ. Ryukyus)
P-13	カワギンチャク <i>Isaurus tuberculatus</i> の沖縄島における分布状況および、高知の個体群との繁殖生態の比較	○河村伊織(琉球大・理工)・James Davis Reimer(琉球大・超域)
PS-14	中層光層におけるサンゴ-褐虫藻共生系の多様性	○波利井 佐紀)・依藤実樹子(琉球大・熱生研)・Frederic Sinniger(JAMSTEC)
PS-15*	海洋酸性化が造礁サンゴに与える影響の種間、群集間比較	○高橋麻美(琉球大・理工)・栗原晴子(琉球大・超域)
PS-16*	炭素安定同位体分析を用いたサンゴ礁生態系における動物プランクトン群集の食物網解析	○中富伸幸)・園田和彦)・山崎春華(創価大・工)・中嶋亮太(JAMSTEC)・栗原晴子(琉球大・超域)・戸田龍樹)・山本修一(創価大・工)
PS-17*	アザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i> 色彩型の蛍光タンパク質とストレス耐性について	○仲栄真礁(琉球大 理工院)・日高道雄(琉球大 理)
P-18	褐虫藻の VLK-プロテアーゼの精製と性質決定	○鈴木雄也(静岡大・理)・塩井祐三(静岡大・創造院)
P-19	光源スペクトルがヒレジャコと体内褐虫藻に及ぼす影響	○井上 顕(沖縄水海研セ)・山下 洋(水研セ西水研亜熱帯)
P-20	<i>Symbionidium</i> Y106 株のベリジニン-クロロフィル-タンパク質複合体の単離・精製と性質	○北原茉依(静岡大・理・生)・栗井光一郎(静岡大・GRL)・塩井祐三(静岡大・創造院)
P-21	ウスエダミドリイシ初期ポリプからの出芽パターン	○高橋志帆)・服田昌之(お茶大・理・生物)
P-22	ミドリイシ初期ポリプの骨格からの脱出	高橋志帆)・服田昌之(お茶大・理・生物)
P-23	ゲノム情報を利用したミドリイシ属サンゴの生殖関連遺伝子の探索	○澤田悠詩)・竹内悠記)・山内千裕(琉球大・理工)・磯村尚子(沖縄高専)・山本広美(海洋博研究センター)・竹村明洋(琉球大・理工)
P-24	サンゴの PO 活性測定によるストレス応答について	○波照間さやか(沖縄高専専攻科)・山城秀之(沖縄高専)
P-25	シアノバクテリア (<i>Lyngbya polychroa</i>) の維持機構の解明	○當山末樹(沖縄高専専攻科)・山城秀之(沖縄高専)
P-26	緯度勾配下における稚サンゴの獲得褐虫藻タイプの比較	○木島大雅(琉球大・理工)・依藤実樹子(琉球大・熱生研)・Frederic Sinniger(JAMSTEC)・新垣誠司(九大・理学部)・目崎拓真(黒潮研)・波利井佐紀(琉球大・熱生研)
P-27	Coral recruitment patterns at 5m and 15m in Lyudao (Green Is.), Taiwan	○Yoko Nozawa)・Chehung Lin)・Aichi Chung(Academia Sinica)
P-28	熱ストレスにより発現が変化するタンパク質の同定	○神保 充)・荒永 康介(北里大海洋生命)
P-29	天皇海山における冷水性サンゴ類の分布調査(2010,2011 年の結果概要)	○林原 毅)・宮本麻衣(水研セ国際水研)・今原幸光(黒潮生物研)・濱野 明)・中村武史(水大校)・立川浩之(千葉県博)
P-30	Survivorship of symbiotic and non-symbiotic coral larvae under thermal stress	○Dwi Haryanti(Univ. Ryukyus)・Michio Hidaka(Univ. Ryukyus)
P-31	高温処理により黄緑色化したユビエダハマサンゴの黒帯病的症状とシアノバクテリア	○吉田磨仁)・竹ノ内明)・若浜貴宏)・奥山英登志(北大・地球環)・小亀一弘(北大・理)・中村明毅)・高嶺翔太(沖電開発)・栗井光一郎(静岡大)・河地正伸(国立環境研)・高市真一(日本医大・生物)
P-32	造礁サンゴにおける水流環境影響	○中村 崇)・山崎秀雄(琉球大・理)・野島 哲(九州大・理)・Robert VanWoesik(フロリダ工科大)
P-33*	精子凍結技術を用いた <i>Acropora digitifera</i> と <i>Acropora sp.1</i> の交雑	○大木駿(琉球大・瀬底実験所)・守田昌哉(琉球大・理工)・Kowalski Radoslaw
P-34*	共生モデル生物としての <i>Acropora digitifera</i> の有用性の検討	○國谷奈美)・神保 充(北里大・海洋)
P-35	キャンセル	
PS-36*	Primary production and nutrient dynamics in seagrass and coral co-existence	○A Meekaeuw)・BE Casareto)・T Higuchi)・Y Suzuki(Shizuoka Univ)
PS-37*	高水温・強光と硝酸塩による複合ストレスと活性酸素生成	○樋口富彦)・BE Casareto(静岡大)・中村隆志(東工大)・PK Chumun)・湯山育子(静岡大)・石川義朗(環境科学技術研究所)・藤村弘行(琉球大)・鈴木 歎(静岡大)
PS-38*	サンゴ骨格中のフッ素含量と石灰化母液の炭酸イオン濃度の関係	○田中健太郎(琉球大・理)・浅海竜司(琉球大・超域)・高橋麻美(琉球大・理工)・栗原晴子(琉球大・超域)・新城竜一(琉球大・理)

P-39	褐虫藻中微量元素の多元定量	○伊藤彰英・桑江 聖・山内啓伍・伊豆見祐 (琉球大・教育)
PS-40*	化石サンゴに基づく過去の台風イベントの復元: 6000 年前から巨大化してきた台風	○本郷宙軌 (琉球大・理)
PS-41*	将来の地球温暖化を考慮した海洋保全計画	○牧野 梓 (Univ. Queensland)・山野博哉 (国立環境研究所)・Maria Beger・Carissa Klein (Univ. Queensland)・屋良 由美子 (国立環境研究所)・Hugh Possingham (Univ. Queensland)
PS-42*	Modeling marine connectivity of coral reefs in Sekisei Lagoon and selected sites in the Philippines	○ L Bernardo・K Nadaoka (Tokyo Inst. Tech)・L Lu (JAMSTEC)・C Villanoy (Univ. of the Philippines)
PS-43*	硫黄島島の pCO ₂ 変動	○井上 志保里・茅根 創・山本将史 (東大・地惑)
PS-44*	石垣島・吹通川河口沿岸部におけるサンゴ礁海域への地下水流入特性	○森 尚大 (東工大・土木)・瀧岡和夫 (東工大・情報理工)・Ariel Blanco (Univ. Philippines)・渡邊 敦・中村隆志・山本高大・阿部友里子 (東工大・情報理工)
PS-45*	サンゴ礁生態系への畜産起源栄養塩負荷発生構造の把握	○竹内友哉・瀧岡和夫 (東工大・情報理工)
PS-46	マジュロ・フナフチ環礁における州島堆積物の粒度組成の特徴	○伊藤理彩・茅根 創 (東大・理)・山口 徹 (慶應大・文)
P-47	Nursery ground を探せ!—微小地形に対応したホズナナの分布様式—	○細野隆史 (東大・理)・Paeniu Lopati (ツバル国水産局)・桑原祐史 (茨大・工)・井手陽一 (海洋プランニング)・茅根 創 (東大・理)
P-48	サンゴ礁の移動特性について	○安藤 亘 ((社)水産土木建設技術センター)・中山哲殿 ((独)水産工学研究所)・滑川 順 (国際気象海洋 (株))
P-49	ツバル・フォンガファーレ島サンゴ礁における有孔虫 <i>Baculogypsina sphaerulata</i> の生活史と生産量	○藤田和彦・乙丸真希 (琉球大・理)・Paeniu Lopati (ツバル水産局)・細野隆史 (東大・理)・井手陽一 (海洋プランニング)・茅根 創 (東大・理)
P-50	多時期の衛星画像を用いたサンゴの白化抽出の検討	○有安恵美子・角田里美 (アジア航測)・浅田典親 (J-Space Systems)・松永恒雄 (国環研)
P-51	サンゴ礁州島形成における外力条件の評価	○鈴木拓也・茅根 創・石川元久 (東大・理)・岩塚雄大 (五洋建設)・磯部雅彦 (東大・新領域)
P-52	フィリピン国の沿岸生態系における地域的環境負荷と炭酸系動態	○渡邊 敦 (東工大・情報理工)・宮島利宏 (東大・大気海洋研)・瀧岡和夫 (東工大・情報理工)・梅澤 有 (長崎大・水産環境)・森本直子 (東大・大気海洋研)・山本高大・土屋 匠・中村隆志 (東工大・情報理工)・Rhia Gonzales・Genevieve L. Regino・Charissa M. Ferrera・Maria L. San Diego-McGlone (フィリピン大 MSI)
PS-53*	銀ナノコロイドがニホンミドリイシの初期生活史に及ぼす影響	○諏訪僚太 (京大・フィールド研)・柏田祥策 (東洋大・生命科学)
PS-54	UAV を使ったサンゴ礁地域の高解像度空中写真の撮影と活用	○長谷川均 (国土館大・地理)・渡部靖之 ((株)情報科学テクノシステム)・吉田貴樹 (BIZWORKS (株))
PS-55	Coral reef resources utilization to support independent economic development and sustainable in Indonesia: identification the potential and condition of coral reef and reef fish	○ KA Roeroer・LTX Lalamentik (Sam Ratulangi Univ)・M Okamoto (Tokyo Univ. of Mar.Scie & Tech)・AB Rondouwu・NPL Pangemanan (Sam Ratulangi Univ)・F Runtukahu (Fisheries Agency・North Sulawesi Prov)
P-56	リーフチェックの結果からみるサンゴの被害状況について	○土川 仁・宮本育昌・菅原正臣 (コーラル・ネットワーク)・福井敬一 (リーフチェック串本チーム)
P-57	沖縄県伊江島におけるサンゴ増殖技術開発に向けた取り組み	○石田和敬・松田健也・片山 悦治郎 (国際航業株)・安藤 亘・石岡 昇・中村良太 ((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄・小森健史 (水産庁漁港漁場整備部整備課)
P-58	沖縄県全域を対象とした、サンゴ群集調査結果の紹介	小笠原敬・長田智史・小澤宏之・長井 隆・山川英治 (沖縄科)・岡地 賢 (CQ)・木 匡 (自然研)・富永千尋 (沖縄県)
P-59	分布北限域におけるエダミドリイシ群落へのガンガゼによる食害の影響	○島田 剛 (東海大・院)・瀬戸 まどか・横地洋之 (東海大・海洋)
P-60	濁りとシルテーションの影響のある海域におけるサンゴ増殖技術の開発	○岡田 亘・高橋由浩 (株エコー)・安藤 亘・石岡 昇・中村良太 ((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄・小森健史 (水産庁漁港漁場整備部整備課)
P-61	サンゴのフェノロジー—冬季に観察された白化現象の緯度の偏向と季節変動	○中野義勝 (琉球大・熱生研)
P-62	和歌山県串本におけるサンゴ群生の観光資源としての利用と経済活性化への課題	○齊藤久美子 (和歌山大・経済)
P-63	四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 2004-2012	○斎藤宇泰・喜多村 鷹也・倉田友香・大毛淳矢・竹内友規 (東海大海洋) 岩瀬文人 (黒潮生物研究所)・横地洋之 (東海大海洋)
P-64	石西礁湖におけるオニヒトデ産卵期のクロロフィル a 濃度分布	○福岡弘紀・山下 洋・亀田卓彦・鈴木 豪 (水研セ西水研重熱帯)
P-65	高知県香南市夜須町手結周辺における造礁サンゴ群集の拡大について	○目崎拓真・田中幸紀 (黒潮研)・久保田賢 (高知大・黒潮圏)
P-66	フィリピンネグロス島沿岸におけるサンゴ礁のモニタリング調査と海洋保護区の有効性について	○瀬尾友樹・ジン・タナンゴナン (近畿大・農)
P-67	稚サンゴの水槽内適正飼育環境	○中村良太・安藤 亘・石岡 昇・間辺本文 (水産土木建設技術センター)・三上信雄 (水産庁漁港漁場整備部)
P-68	サンゴ電着棚の 5 年間における成長	○山本 悟 (日本防蝕工業)・木原一禎・細川恭史 (三菱重工鉄鋼エンジニアリング)・近藤康文 (シーピーファーム)・鯉淵幸生 (東京大学陰・新領域創成)・谷口洋基 (阿嘉島臨界研究所)
P-69	リュウモンサンゴ属の一種 <i>Pachyseris foliosa</i> の沖縄島における生息の確認	○大原 拓 (有限会社ベントス)・藤井琢磨・河村伊織・式場はるか・水山 克・Javier Montenegro (琉球大・理工)・Kristine White (UMUC)・成瀬 貫 (琉球大・TBRC)・James Davis Reimer (琉球大・超域)
P-70	船舶搭載ライダー観測による広域サンゴモニタリング法の開発	○篠野雅彦・田村兼吉・桐谷伸夫・今里元信・松本 陽 (海技研)・山野博哉・小熊宏之 (国環研)
P-71	沖縄県多良間島礁池で見られる高被度エダモコンサンゴ群集とその海藻群集との混在の様子	○棚谷灯子・茅根 創 (東大・理)
P-72	沖縄沿岸海域における日焼け止め成分による海水とサンゴ食生物の汚染状況	○田代 豊 (名桜大国際)・亀田 豊 (千葉工大・工)
P-73	A Conceptual Framework for Coral Reef Rehabilitation in Thailand	○ T Yeemin・S Pengsakun・W Klinthong・W Samsuvan・M Sutthacheep (Ramkhamhaeng Univ.)
P-74	An Assessment of Coral Reef Resilience in the Gulf of Thailand following the 2010 Bleaching Event	○ M Sutthacheep・M Yucharoen・K Sangmanee・T Yeemin (Ramkhamhaeng Univ.)

サンゴ礁研究 ハイライト

公表論文

Atsuko Yamazaki, Tsuyoshi Watanabe, Urumu Tsunogai (2011) $\delta^{15}\text{N}$ in reef coral skeletons as a proxy of tropical nutrient dynamics, *Geophysical Research Letters*, 38, L19605, doi:10.1029/2011GL049053

ハイライト:

サンゴ礁が分布する熱帯・亜熱帯域は栄養塩の長期継続的な観測に乏しく、栄養塩循環が十分に理解されていない海域です。そこで私達はサンゴ骨格の化学分析を用いてサンゴ礁の生物が取り入れる栄養塩が何処から来ているのか、明らかにしようとしています。栄養塩の一つである窒素を含む化合物は、その起源によって固有の同位体比を持ちます。本研究ではサンゴ骨格中に含まれる微量の有機物の窒素同位体比測定手法を開発し、石垣島白保サンゴ礁の轟川河口において、サンゴの主な窒素起源物質と考えられる海水中の硝酸とサンゴ骨格の窒素同位体比を比較しました。その結果、両者のサンゴ礁内における分布が一致し、サンゴ骨格から河川水と外洋由来の硝酸の同位体比組成を検出しました。本研究によって、サンゴ骨格に生息期間中の硝酸起源の時間変化が記録されており、サンゴ礁汚染の変遷や貧栄養海域の窒素循環過程の復元に応用できる可能性を示しました。

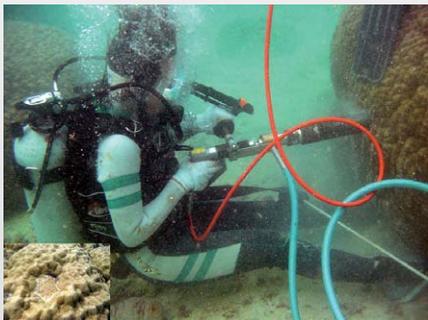


写真: 石垣島轟川河口におけるハマサンゴ掘削作業の様子と、一年後のサンゴ掘削孔の回復状況(左下)

✉ 連絡先: 山崎敦子 (Yamazaki Atsuko)
zaki@mail.sci.hokudai.ac.jp

公表論文

Chuki Hongo, Hideki Kawamata, Kazuhisa Goto (2012) Catastrophic impact of typhoon waves on coral communities in the Ryukyu Islands under global warming *Journal of Geophysical Research - Biogeosciences* 117: G02029, doi:10.1029/2011JG001902

ハイライト:

台風はサンゴ礁に様々な影響を与えます。とくに、台風が引き起こす海底の流れは、サンゴなどの底生生物を転倒させ破壊を引き起こし、サンゴ礁生態系を攪乱します。近年、地球温暖化によって台風が巨大化することが報告されており、これからますます台風の被害が拡大することが予測されます。そのため、どこに生息する、どんなサンゴが被害を受けるのかの確に予測し、サンゴ礁生態系の維持を目指した対策を行うことが必要となっています。そこで、本研究は台風来襲地域の石垣島伊原間サンゴ礁において、フィールド調査と流体力学モデルを組み合わせて、サンゴ転倒被害予測モデルを構築しました。その結果、今後、巨大化台風が来襲すると、サンゴ礁生態系の維持に必要な不可欠なテーブル状サンゴが破壊されることが明らかとなりました。そのため、サンゴ礁生態系維持を目指してサンゴ片を移植する際には、台風被害を考慮した取り組みが必要になってくるといえます。例えば、付着面積や付着強度を高める工夫が必要です。



写真: 石垣島伊原間サンゴ礁に生息するテーブル状サンゴ(ココビミドリイシ)

✉ 連絡先: 本郷宙軌 (Hongo Chuki)
g123001@sci.u-ryukyu.ac.jp

公表論文

Hideyuki Yamashiro, Yurika Mikame, Hidekazu Suzuki (2012) Localized outbreak of attached diatoms on the coral *Montipora* due to low-temperature stress. *Scientific Reports* 2: 552. doi: 10.1038/srep00552

ハイライト:

2011年2月、瀬底島のサンゴ群体上に珪藻類が付着する局所的な大発生が起こり、サンゴが死亡する現象に遭遇しました。初期に褐色の斑点のように見えた珪藻は、綿毛のようにサンゴを覆うようになり、サンゴの全体または一部が死に至りました。付着珪藻類 (*Licmophora*, *Climacosphenia*, *Ardissonea* 他) は、なぜかコモンサンゴ類 *Montipora* のみに付着し、容易に剥がれませんでした。顕微鏡観察の結果、珪藻はサンゴ枝の部分的に露出した骨格に多糖類の柄で直接付着していることがわかりました。急激な海水温の低下がサンゴの衰弱を引き起こし、その結果として、露出したサンゴ骨格に珪藻類が付着・繁茂したものと考えています。わずかながら、2012年の冬にも初期の斑点状の付着は確認できました。暑くても寒くても、過度な温度変化はサンゴに直接あるいは間接的にダメージを与えることがわかりました。



写真: コモンサンゴの露出した骨格の上に付着する珪藻(トルイジンブルー染色)

✉ 連絡先: 山城秀之 (Yamashiro Hideyuki)
coral@okinawa-ct.ac.jp

編集後記

今夏の学内の節電率が例年比で10%超であったという記事を学内広報で見てびっくりしました。何も変わってなさそうだったのに。JCRSの学会員はエコな人が多そうです。
編集担当 梅澤



2012年10月19日発行

日本サンゴ礁学会ニュースレター [2012 / 2013 No.2]
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No.55

- 編集・発行人 / 「日本サンゴ礁学会広報委員会」
- 藤村 弘行・井口 亮・磯村 尚子・梅澤 有・栗原 晴子・中村 崇・浪崎 直子・樋口 富彦・本郷 宙軌・渡邊 聡
- 発行所 / 日本サンゴ礁学会 ● 事務局 / 茅根 創 <kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp>
- 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院 理学系研究科 地球惑星科学専攻 Fax: 03-3814-6358